

“大分らしい”オープン競技も開催します!!

○ オープン競技とは…

全国障害者スポーツ大会では、開催県の判断でオープン競技を実施することが出来ます。

一昨年の兵庫大会では、ローンボウルズや馬術など5競技が開催されました。その中の一つである精神障害者のバレーボールは、第2回大会から昨年までの過去6年間、オープン競技として実施されましたが、今年から正式競技となりました。

このオープン競技は、ある意味では“大分らしさ”を表現する最高の舞台でもあります。今回実施される「ふうせんバレーボール」と「卓球バレー」では、どんなドラマが展開されるのでしょうか？**ご期待下さい。**

(大分県障害者スポーツ振興アドバイザー 堀川裕二)

○ 実施競技の紹介

ふうせんバレーボール	
実施日	平成20年10月12日（日）
実施場所	かんぼの郷宇佐（宇佐市）
特徴点とルール	<p>約30年前に九州で生まれた障がい者スポーツ「ふうせんバレーボール」が「チャレンジ!おおいだ大会」のオープン種目として開催されます。</p> <p>ふうせんバレーボールは、障がいのある人もない人も、また、障がいの種別や程度に関係なく、年齢や性別にかかわらず、全ての人と一緒に参加し楽しめる、まさにユニバーサルデザイン（UD）のスポーツです。</p> <p>バドミントンコートを使い、6人対6人で直径40センチのふうせん（ボール）を打ち合うこの競技の最大の特徴は、相手チームからボールを受けて、6人全員が一度はボールに触れなければいけない事です。</p> <p>10月12日（日）、宇佐市（大分県のふうせんバレーボール発祥地）で開催される「ふうせんバレーボール全国交流大会 in おおいだ」には、全国9都府県から32チーム（選手・役員約500名）が参加します。</p> <p>この大会に向けて、九州勢のチームが熱く燃えていますので、優勝を争う一角を担うと思われます。また、大阪や東京などからも精鋭が参加しますので、優勝の行方はわかりませんが、わくわくドキドキする楽しい大会になることは間違いありません。</p> <p>この大会を機に、「ふうせんバレーボール競技」が全国に広がっていくことを心から願っています。</p> <p>各県から「チャレンジ!おおいだ大会」に参加される選手役員の方々にも、是非この競技を体験して頂きたいと思い、10月11日（土）午後、の大分県身体障害者福祉センターで「デモンストレーション」を実施します。是非ご参加ください。ふうせんバレー競技のルールや資料も用意してお待ちしております。</p>



卓球バレー	
実施日	平成20年10月12日（日）
実施場所	大分県身体障害者福祉センター（大分市）
どんな競技？	<p>卓球バレーは、簡単に言うと6人制のゴロ卓球です。卓球台を1チーム6名ずつの合計12名で取り囲み、ネットの下の空間（五七ミリ）を中に4個の金属玉が入ったピン球を転がし合って競技します。3回までに返すことや、ネット際のプレーがバレーボールのルールを取り入れていることから、「卓球バレー」と呼ばれています。</p> <p>今回の「チャレンジ!おおいだ大会」には、10府県から32チームの参加が予定されています。まず、競技中心の“チャレンジクラス”ですが、優勝候補筆頭は本家京都の宇治市チーム（京都府）。それに続くのは和歌山県、山口県、北九州市、宮崎県の各チームなど。地元大分県では「別府フラワーズ」、「太陽の家サンシャイン」の別府勢にメダルの期待が掛かります。</p> <p>一方、親睦中心の“めじろんクラス”では、障害的には最重度の療護施設のチームや別府発達医療センターの子どもたちの一生懸命なプレーが注目です。是非、応援にお越し下さい。</p> <p>(大分県卓球バレー協会)</p>

